



(様式第1号)

平成28年5月25日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領域名： ⑤認知症に関する領域

科目名： ⑤認知症のある人への生活支援・連携

単位数： 2 単位

認証申請する研修の名称： 認定介護福祉士養成研修

団体名： 公益社団法人長野県介護福祉士会

団体事務所の所在地： 〒 380-0928

長野県長野市若里 7-1-7

電話： 026-223-6670

FAX： 026-223-6679

E-mail： sakai@kaigo-nagano.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者：(公社)長野県介護福祉士会
会長 畠山仁美 (印)

申請責任者： 酒井 良育



記

○認定介護福祉士認定研修認証申請書(別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	認知症に関する領域	
科目名	認知症のある人への生活支援・連携	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症のある人が地域において自立した生活を営めるように実践的な知識と技術を獲得させるとともに、他の介護職への指導及び認知症のある人を取り巻く環境を形成する他職種や地域との連携を通じて支援していきけるようにさせる 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症に関する生活支援に必要な医療的知識を習得し、他者に説明できる。 ・ 認知症の生活支援に必要な知識・技術を習得し、実践できる。 ・ 認知症におけるリハビリテーションの重要性を理解し、他者に説明できる。 ・ 認知症支援に関する社会制度、政策等を理解し、他者に説明できる。 ・ 認知症のBPSDを理解し、よりよい対応ができる ・ 症状や使用している薬等から利用者の状態を分析し、適時・適切なケア方法や医療等の他職種連携の必要性について判断できる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症（MCI、アルツハイマー病の認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉型認知症、若年性認知症等）について <ul style="list-style-type: none"> ・ その機序、主な症状、生理学的要因、診断・治療、経過・予後、よく使われる薬、生活上の留意点 ○ 認知症の生活支援に必要な知識・技術（リハビリテーションを含む） <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患別、ステージ別アプローチ ・ パーソンセンタードケア等の理解 ・ 環境調整 ・ BPSDに対応できるより良いケアの理解 ・ 家族介護者への支援 ○ 認知症支援に関する社会制度等 ○ 他職種連携等の基礎的な知識 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症に関するアセスメントツール（DASC-21、Zarit 8、DBD13、HDS-R） ・ 医療職との連携 ・ リハ職との連携 	<p>事前課題 1 自職場の事例を「ひもときシート」を用いて分析する。（3時間）</p> <p>事前課題 2 課題 1 で分析した事例のアセスメントを実施する。（3時間）</p> <p>事前課題 3 事例を用いて認知症の人と家族・地域を「エコマップ」でまとめる（3時間）</p> <p>事前課題 4 認知症の人とのやり取りを「シナリオレコード」を記入し分析して考察する。（3時間）</p> <p>事前課題 5 自職場のある自治体の認知症施策と職場周辺の認知症ケアの資源についてまとめる。（3時間）</p> <p>事前課題 1～5 について A4 5 枚程度にまとめる。</p> <p>1. パーソン・センタード・ケアから行動の背景をひもとく。</p> <p>脳の器質性疾患による認知機能障害について、事例（事前課題 1、2）を通じて理解する。</p> <p>（講義 1 時間 演習 2 時間）</p> <p>(1) 心理的理解について</p> <p>① 行動心理的アプローチ</p> <p>② ストレスに対する対処行動</p> <p>(2) 生活歴から</p> <p>① ライフレビュー（ライフヒストリー）</p> <p>② レミニッセンス（回想的アプローチ）</p> <p>(3) 認知症の種類</p> <p>① 認知症の種類（MCI、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉</p>

⑤認知症のある人への生活支援・連携

	<p>型認知症、若年性認知症) ごとの機序、主な症状、生理学的要因、診断・治療、経過・予後、生活上の留意点</p> <p>(4) 健康状態</p> <ul style="list-style-type: none">① 認知症の人に及ぼす生活リズムの障害② 便秘、空腹、疲労、不眠、痛みなど身体的苦痛③ 薬の副作用、抗精神病薬の弊害等について <p>(5) 家族やスタッフからのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none">① 悪性の社会心理の理解② 不適切なケア <p>2. 認知症の人が抱く心理的ニーズについて、認知症の人が置かれている状況が「ニーズが満たされていない状況」か「ニーズが満たされていない状況」の背景について事例（事前課題 3）を使い理解する。</p> <p>（講義 1 時間 演習 2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 認知症の人が抱く心理的ニーズの理解(2) アセスメントにより、ニーズを満たすための課題を明らかにする。 <p>3. 認知症の人への環境アプローチの意義について</p> <p>（講義 1 時間 演習 2 時間）</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 物理的環境、社会的環境、精神的環境について事例を通じてその重要性を理解する。(2) PEAP を用いて環境改善の演習 <p>4. 認知症の人を支援するための多職種協働について</p> <p>（講義 1 時間 演習 3 時間）</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 認知症ライフサポートモデルについて(2) 多職種協働（医療職、相談援助職、リハ職、行政、地域住民）との演習 <p>5. 認知症の人と家族の支援</p> <p>（講義 1 時間）</p> <ul style="list-style-type: none">(1) 認知症の人と家族の負担感と支援のズレについて事例（事前課題 4）を通じて理解する。(2) 家族支援のためのアプローチの実際を理解する。
--	---

	6. 認知症支援に関する社会制度（事前課題 5） （講義 1 時間） （1） 認知症ケアの歴史から制度の変遷を理解する （2） 認知症の人当事者の声を反映した政策 ① イングランド認知症国家戦略 ② 新オレンジプラン ③ 認知症ワーキンググループ （3） 認知症の人と共に作る社会について
研修方法	<p>■ 集合研修 ■ 課題学習</p> <p>○集合研修講義と演習を組み合わせて行う。 ○課題学習は事前課題として、レポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p>
研修時間	30 時間（集合研修 15 時間、課題学習 15 時間）
修了要件	<p>○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計 30 分（遅刻、早退それぞれ 15 分）を上限として認める。（レポート課題なし）1 日のプログラムのうち、始めの 30 分を超える遅刻、終わりの 30 分を超える早退であって 120 分以内である場合、レポート課題による代替を可能とする。120 分を超える遅刻、早退の場合は、ビデオ学習による補講を行ったうえでレポート課題を提出するものとする。</p> <p>○修了評価として行う筆記試験（50 問程度）において、A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）であること。D 評価（59 点以下）の場合は、再試験を行い、A～C 評価とならなければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者
(2) 受講者について	
受講対象（受講要件）	単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。
修了評価	筆記試験（50 問程度）により行い、100 点～80 点を A 評価、79 点～70 点を B 評価、69 点～60 点を C 評価、59 点以下を D 評価とする。A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）で修了とする。
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30 名（講師 1 名）演習時も同じ講師で行う。
開催場所（都道府県）	JA 長野県ビル（長野県長野市）

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 29 年 7 月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 長野県長野市 JA 長野県ビル
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	<p>担当する講義等 認知症のある人への生活支援・連携 宮島渡 氏 恵仁福祉協会常務理事、高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ総合施設長、日本社会事業大学専門職大学院特任教授 ファーストステップ研修講師 (長野、大阪、群馬、石川、富山、福井、滋賀)、認知症介護指導者研修 (東京センター、大府センター)、NPO 地域生活サポートセンター理事、NPO キャリア開発機構理事、長野県認知症対策推進協議会委員</p> <p>主な著書 「地域でねばる」(筒井書房)、「利用者の生活を支えるユニットケア」(認知症介護研究・研修東京センター 共著) 「生活施設のケアプラン実践」(中央法規 共著)、「認知症の理解」(中央法規 共著)、「認知症に対する介護技術」(第一法規 共著)</p>
	<p>担当する講義等 修了評価 宮島渡 氏 (恵仁福祉協会常務理事) 履歴等は同上</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	<p>研修委員会 (非常勤: 17 名) 事務局 (担当事務局員、常勤: 4 名) 研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。また、できる限り研修委員会の委員が研修を見学し、研修内容を評価するとともに、随時、研修の見直しを図る。</p>
研修の企画運営に関する諸規程	研修委員会設置要綱
研修管理責任者職名	副会長
研修管理責任者氏名	原千香子
機構問合先部署	長野県介護福祉士会事務局

機構問合せ先担当者氏名	酒井良育
機構問合せ先電話番号/FAX	026-223-6670 FAX 026-223-6679
機構問合せ先 e-mailアドレス	sakai@kaigo-nagano.jp
受講問合せ先部署	長野県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	酒井良育
受講問合せ先電話番号/FAX	026-223-6670 FAX 026-223-6679
受講問合せ先 e-mailアドレス	sakai@kaigo-nagano.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	長野県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○外付けディスクにバックアップデータを保管する。 ○データ保存期間は10年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 ○個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、会長名による修了証書を発行する。
管理責任者氏名	土屋一都(事務局長)
管理担当者氏名	酒井良育(担当の常勤職員)